

## ビザ A(V)

【セクター】 情報技術

【市場】 NYSE

## 【企業概要】

世界のクレジット・デビットカードの決済ネットワークをマスターカードと二分する大手です（「中国銀聯」が独占する中国市場を除く）。クレジット・デビットカード業界は、（1）決済ネットワーク会社、（2）カード発行会社（銀行や信販会社など）、（3）加盟店管理会社、の3つに分類されます。（2）、（3）は世界に数百～数千社がありますが、（1）はグローバルに展開するのは数社に限られ、ビザとマスターカードによる寡占となっています（図表1）。

【業績】（単位：売上、純利益は百万ドル、EPS、DPS、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%）

決算期	売上高	純利益	EPS	DPS	BPS	ROE	自己資本比率
18年9月期	20,609	10,778	4.63	0.88	14.1	38.7	49.1
19年9月期	22,977	12,367	4.89	1.05	14.8	41.8	47.8
20年9月期予想	25,451	13,760	6.22	1.12	16.5	40.7	-

※EPS：1株当たり利益、DPS：1株当たり配当、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

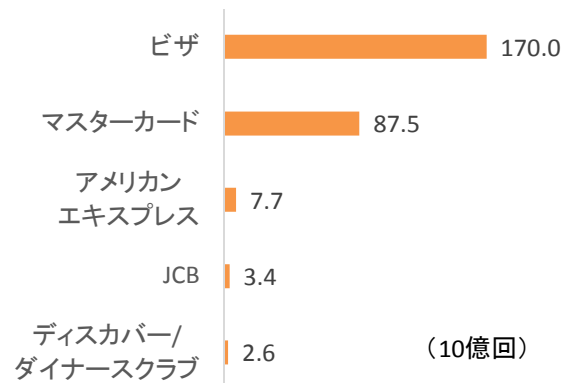
## 【主要指標】

図表1 クレジットカード・デビットカード業界の主要企業

決済ネットワーク
ビザ、マスターカードなど
カード発行（イシューアー）
JPモルガンチェース、シティグループ バンクオブアメリカ、アメリカンエクスプレスなど
加盟店管理（アクワイアラー）
ファーストデータ、グローバルペイメンツ ワールドペイ、フィサーブなど

（出所）各種報道よりSBI証券が作成

図表2 クレジットカード、デビットカードの決済件数（17年）



（出所）会社資料よりSBI証券が作成

## 【会社の見方】

世界のカード決済市場は、（1）世界の消費が年率5%程度で増加していることに加え、（2）現金決済から電子決済へのシフト、（3）世界的な中間所得層の増加（カード保有者の増加につながる）といった構造的な成長要因が加わって、年率8%前後での成長が続いています。その魅力的な市場をグローバルでマスターカードと二分していること、また、装置産業であるため新規参入も難しいと考えられることから、安定的な高成長が期待されます。売上高純利益率が5割超と極めて高収益です。

## 【見通し・注目点】

米国個人消費の堅調、世界的な消費の拡大、世界的なeコマースの利用拡大などから、クレジット・デビットカードの利用額は順調に拡大しています。一方、スマホを使った電子決済や仮想通貨など、潜在的にクレジット・デビットカードによる決済の競合となる新技術も出てきているのは、中長期の観点からは注意が必要でしょう。フェイスブックが構想する暗号通貨「リブラ」に対する当局の姿勢が厳しく、実現に向けてハードルが高いことが判明したのは同社にポジティブと考えられます。

（SBI証券 投資情報部 榮 聡）

（更新日 19/10/30）

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。